特集テーマ

『家族』という場

本号の特集テーマは、「『家族』という場」です。

家族は生活を営む場でありながら、葛藤に満ちている場でもあるかもしれません。親子、夫婦、きょうだい、親戚と、家族はさまざまな人間関係で成立しています。家族はそうした親密な関係で構成されているからこそ、安心を提供する場になることもあれば、解決しがたい困難な問題が生じる場にもなり得るでしょう。たとえば、親の言うことに子どもはどこまで従わなければいけないでしょうか。家族に対して正直に自分の考えを打ち明けることは、はたしてどこまで保証されているでしょうか。自身が抱えている問題を打ち明けたとき、家族はどこまで理解することができるでしょうか。先祖代々受け継いできたものは継承されなければならないものなのでしょうか。

家族という場に目を向けると、おそらくみなさんがどこかで悩んだことのある問題が浮かび上がってくるのではないでしょうか。特集では、宗教二世問題、カミングアウト、病、ヤングケアラーと移民、在日コリアンをテーマにしたエッセイをご寄稿いただきました。家族という場が葛藤に満ちていることを描きながらも、新たな関係を築くにはどうすればよいか。そんな希望を示してくれる特集です。

（親鸞仏教センター　宮部　峻）

特集

菊池真理子 ● 2
宗教のある家に生まれて

勝又栄政 ● 6
〝幸せ〟の差異を超えて――カミングアウトと家族

原めぐみ ● 10
ケアする居場所　外国につながる親と子をまとめて支える

野島那津子 ● 12
社会はどこにあるのか

萩翔一 ● 12
韓国から日本に渡り、在日の祖先を祀る
――在日コリアン社会で生きる韓国人女性たちの声

連載

本多弘之 ● 16
宗教的実存を成り立たせるものII

Essais

櫻木みわ ● 18
ライムライム・グリン

梶谷真司 ● 20
対話をすれば、何でも哲学になる
――自分で考える大切さを体感するために

特別寄稿

志賀秀孝 ● 26
浅野竹二――ゆまにすとの優しきドガチャガ

交差点

長谷川琢哉 ● 30
出家と家族

伊藤真 ● 31
日本人の家族